

平成19年12月25日

総務省

(社)デジタル放送推進協会

地デジ完全移行に向けた「簡易なチューナー」の仕様ガイドラインの公表

地上デジタルテレビジョン放送は、平成15年12月の開始後、昨年12月にはすべての都道府県で放送が始まるなど、これまで普及展開が順調に推移しており、平成23年(2011年)のアナログ終了期限まで約3年7ヶ月となった現在、デジタル化完了への最終段階に入ったところです。

今後は、地デジ完全移行に向け、受信側の環境整備など様々な課題を解決すべく、関係者が一致協力して積極的に取組を進めていくことが重要となっています。

このような中、今年8月の情報通信審議会「地上デジタル放送の利活用の在り方と普及に向けて行政の果たすべき役割」第4次中間答申で、デジタル放送視聴のための最小限の機能を有する簡易なチューナーの必要性等が提言されていることを踏まえ、総務省は、このような機器の仕様検討等について社団法人デジタル放送推進協会(Dpa)に協力を求めてきました。

今般、Dpaにおいて、簡易なチューナーの位置付けイメージ及び必要最小限の仕様ガイドラインが別添のとおり取りまとめられ、本日、総務省はその報告を受けましたので、お知らせします。

総務省及びDpaでは、本仕様ガイドラインの活用など受信側の環境整備に向け、今後とも地デジ完全移行のための取組を進めていく予定です。

(関連報道資料)

- ・「地上デジタル放送の利活用の在り方と普及に向けて行政の果たすべき役割」

情報通信審議会 第4次中間答申

http://www.soumu.go.jp/s-news/2007/070802_5.html

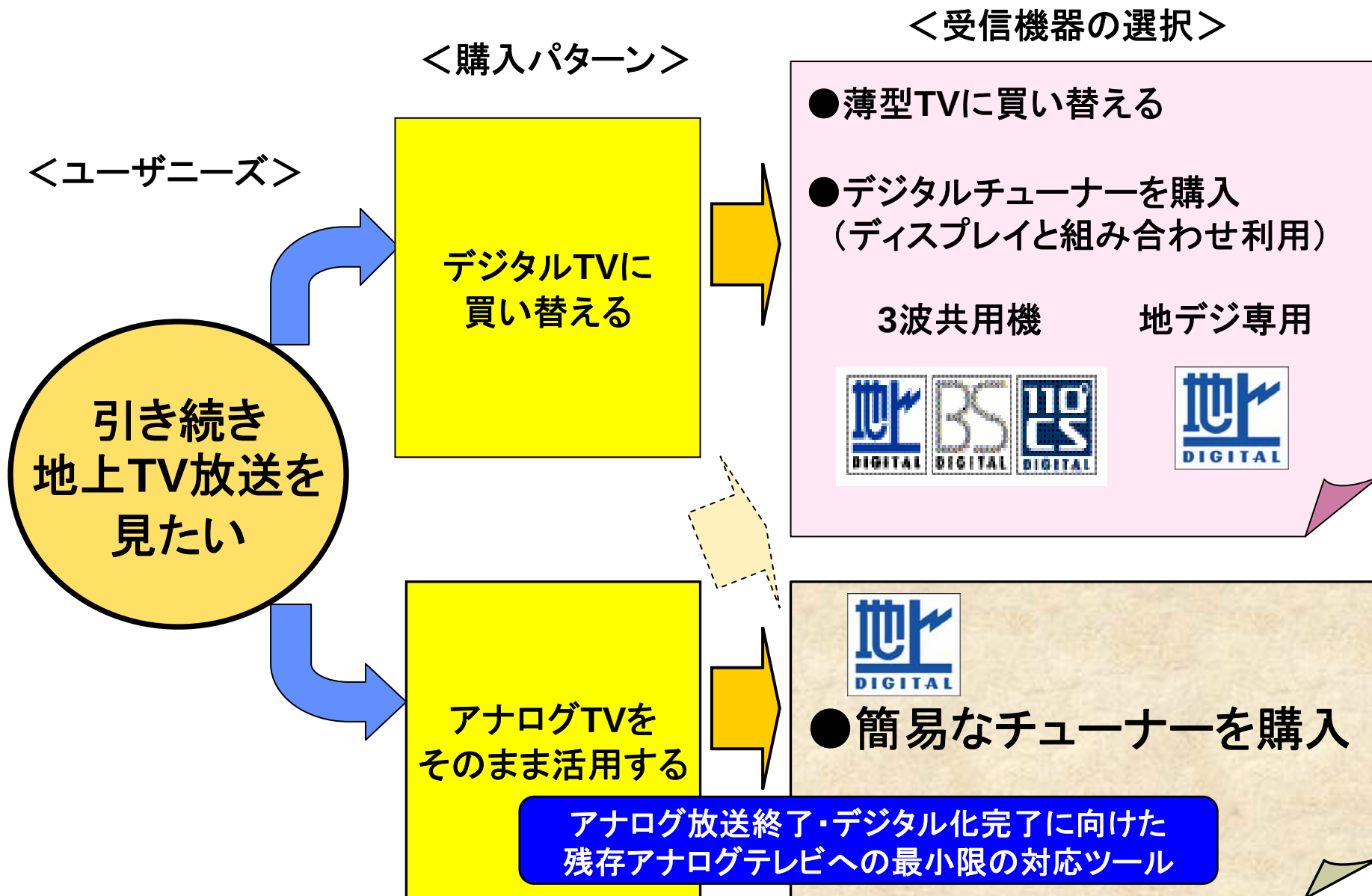
【連絡先】 総務省情報通信政策局放送技術課
担当: 森下課長補佐、竹村開発係長
電話: 03-5253-5785(直通)

「簡易なチューナー」の 機能等に関する検討結果

2007年12月

(社)デジタル放送推進協会 (Dpa)

(1)簡易なチューナーの位置付けイメージ



(2)必要最小限の仕様ガイドライン

- ①映像デコード(NTSC変換) ②音声 ステレオ／二カ国語
- ③コンポジットビデオ出力／ステレオ・音声出力 1系統
- ④字幕・文字スーパー ⑤エラーメッセージ表示
- ⑥画面表示モード選択機能
- ⑦CASモジュールインタフェース、コピー制御
 - ・デスクランブル機能は必要
 - ・コンポジット出力に対してコピー制御必要
- ⑧周波数変換パススルー対応 (VHF、SHB)
- ⑨ダウンロード(ES)

(参考)仕様検討上、考慮すべき要件

●地デジ機能非搭載テレビの継続利用ニーズに対応

※対象テレビは、地上デジタルチューナーを搭載していない
「ハイビジョン非対応のアナログテレビ」を想定

●アナログテレビ利用時とあまり違和感なく視聴を実現するための仕様/機能に配慮する

●2011年7月へ向けた残存アナログテレビへの対応の観点から、最小限必要な機能とする

●ただし、受信機メーカーの商品企画を拘束しない